

雑記抄

点・線・面(その二) 線

一九五九(昭三四)年榎美術出版社初版カデンスキー(西田秀穂訳)の点・線・面によると、点とは「考えうるかぎり小さいもの、そして丸いもの、小さい円のこと」と定義し、線とは「動く点の軌跡であり、点の所産」であるという。要するに点の連続が線であるから、線についての雑記を試みよう。

視線：目が注がれている方向や、ものを見つめている目の向きを視線といい、よく「何となく視線を感じる」とか「視線をそらす」などと使う。

視線を感じる時や場所といえば、何かばつが悪い(調子や都合が悪い)・きまりが悪いなど、また或る種の期待や不安に対する心理状態をいうし、視線をそらすのも「見似たような言い方ともいえる」。「何を・いつ・どこで」の大切さはいまでもないが、「見ているのに見えない・見えない・見えない」といわれるのが各種の「たより・通信・広報・案内・お知らせ」

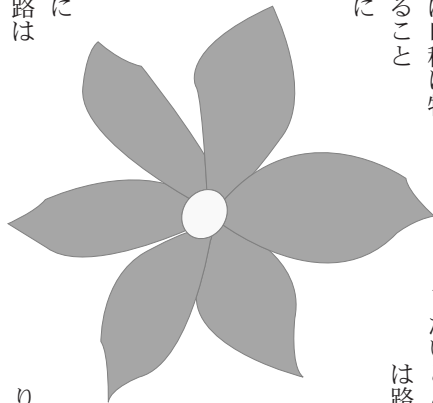


「せ」であり、折角の見てくださいも見逃しが多くなつて「出したのだからいいというものでもない」と切り返すのは困ったものである。ところで、「目は口程に物を言う」といわれることから、「目付き」に気をつけなさい

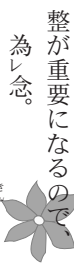
「とんだ失敗や誤解」を招くことにもなるので、為し念。

複線：道路も鉄路も複線化へと進展している現在にあって、未だ単線路は

多いのもまた実状である。五月の大型連休のピークには四十年にも及ぶ車の渋滞が続くというニュースは正にリアルタイムの物凄さを実感すると共に、車時代のエンドレス(終わりのない)はと思ふのも、ペーパー・ドライパーに終わった者の儼然根性丸出ししか。さて、複線とは二本またはそれ



以上の線であり、複線軌道の略である。ひがしかわには二名の副町長による行政がスタートして「より良い住民サービスの提供」に努められるとのこと。これも複線のスタッフ体制であり、町に確かでさわやかな新風がそよぎ、尚一層活力ある町づくりが大いに期待されるのである。ただここで再確認したいこと、それは↓複線化には路盤の拡充や運行の調整が重要になるので為し念。



紫外線：紫外線(スミレ色の外線)ともいわれる紫外線はその波長が可視光線(人が肉眼で感じる光の電磁波)より短く、X線(レントゲン線)よりも長いとされる。強い化学作用を持つているので、真夏の太陽の光(直射日光)を正面に長時間浴びることは皮膚によくないともいわれている。

しかし、紫外線写真というものは、石英と蛍石で作った特殊レンズと特殊乾板を使い、紫外線をあてて撮影する写真といわれ、美容・医学・工業検査・鑑識捜査などに利用されている。ここでちょっと気になるのは「必要悪や無用の用」ということである。何でも「ほどほどが大事」といわれて久しいが、紫外線も使いつつは「薬も毒、毒も薬」となる。つまり、「ほどほどの難しさや使い方の善し悪しによって結果が変化するのである」。

ひとつの例えをいえば、何かの「線引き・歯止め・境界線など」を決めるには「よりの確な計画と実行」が必要不可欠となってくるというところで、規制緩和策がこの例になるので、為し念。

前中央分館長

尾池隆男

おわび：五月号の訂正
 ①三段目のマニフェストの「ユ」を削除
 ②四段目「図説のとおりであるし」梃子でも…は、「図説のとおりであるし、梃子でも…」。
 ③「…頑固者」増え続ける…は「頑固者」の…。

